

3 社会教育の推進に関する事務

(1) 社会教育委員兼公民館運営審議会委員の活動

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク												
<p>① 会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育委員兼公民館運営審議会会議を年3回（例年4回開催しているが、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため3回）開催し、教育委員会が計画する事業の説明や事業の進捗状況、実績について報告を行った。 実践する社会教育委員を目指し、生涯学習課が主催する事業へ参加し、事業の意義や問題点などに対する指導や助言を行うこととした。 また、外部研修会等に参加した委員から、研修内容の報告を受け、研修成果について委員相互の共有化を図った。 課題である社会教育委員の資質向上と活動充実を図ることを目的として、前年度より配置した各地区社会教育指導員と対話形式でグループワークを行い、社会教育委員としての使命感や社会教育の地域課題への取組について研鑽を積むことができた。 今後も、提言書「潤いとつながりのある地域教育力向上を図る」の具現化に向けた取組について協議を行っていくこととした。 ○ 第1回 6月6日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度社会教育事業実績について ・令和元年度社会教育事業計画について ・令和元年度の研修予定について ・研究協議「社会教育と各地区公民館講座計画について」 ○ 第2回 9月30日(月) <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県社会教育研究大会参加報告について ・研究協議「福島県における『家庭教育相談・充実事業』について」 ・令和2年度予算要求について ・その他 「通学合宿について報告」 ○ 第3回 12月26日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業進捗状況及び令和2年度予算要求の主な事業について ・令和元年度長崎県公民館連絡協議会顕彰表彰について ・令和2年度 社会教育関係大会について ・研究協議「地域学校協働活動」について ・令和2年度各地区公民館講座計画について ○ 第4回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止 	B												
<p>② 委員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育並びに公民館関係の研究大会に積極的に参加することにより、社会教育委員兼公民館運営審議会委員としての意識向上と自己研鑽を図った。また、市内で開催される社会教育事業にも積極的に参加し社会教育の普及に努めた。 <table border="1" data-bbox="320 1700 1401 1856"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>九州地区研究大会</th> <th>県研究大会</th> <th>県研修会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加回数</td> <td>1回〔2回〕</td> <td>1回〔2回〕</td> <td>4回〔3回〕</td> </tr> <tr> <td>参加延べ人数</td> <td>5人〔6人〕</td> <td>4人〔10人〕</td> <td>16人〔4人〕</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	九州地区研究大会	県研究大会	県研修会	参加回数	1回〔2回〕	1回〔2回〕	4回〔3回〕	参加延べ人数	5人〔6人〕	4人〔10人〕	16人〔4人〕	B
区 分	九州地区研究大会	県研究大会	県研修会										
参加回数	1回〔2回〕	1回〔2回〕	4回〔3回〕										
参加延べ人数	5人〔6人〕	4人〔10人〕	16人〔4人〕										

(2) 家庭教育支援の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 地域人材の育成</p> <p>○ 家庭教育は全ての教育の出発点という認識に立ち、少子化や核家族化等による環境の変化に対応した家庭教育支援の充実を図るため、内閣府の補助事業等を積極的に活用し地域人材の育成と親の学びの機会の充実に努めた。</p> <p>人材育成については、結婚・妊娠・出産・育児まで切れ目のないきめ細やかな支援を行うコアサポーターや保育士を中心として主に乳幼児期に関する「保護者支援」の知識・技術等を身につけた保護者支援士の養成に努めた。</p> <p>しかしながら、家庭教育支援プログラムを進行するファシリテーターの養成講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し中止とした。</p> <p>○ 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援コアサポーター養成講座 9月10日(火)、9月11日(水)、応用講座：10月10日(木) 10月11日(金)、実践サポート：1月10日(金)、1月11日(土) 受講者数 26人〔51人〕 ・家庭教育支援プログラムファシリテーター養成講座 3月2日(月)、3月12日(木) 受講者数 -人〔71人〕新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止 ・南島原市保護者支援士養成講座 8月25日(日)、9月23日(月・祝)、10月20日(日)、11月17日(日) 12月15日(日)、1月19日(日)、2月24日(月休) -受講者数 46人〔36人〕 	B
<p>② 学びの機会の充実</p> <p>○ 子育てに関心が高い父母等に、乳幼児期から学びの機会創出を図るため、親子体験型の講座や親育ち講座を開設したほか、家庭教育支援施設「わくわく広場」や公民館、図書館の積極的な活用を努めた。また、家庭教育に係る講演会も開催した。</p> <p>○ 家庭教育学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内 99講座〔113講座〕 受講者数 2,274人〔3,746人〕 (親子体験型家庭教育学級、親育ち講座ほか) <p>○ 家庭教育講演会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月24日(水) ありえコレジヨホール 講 師 土居 善晴 氏 演 題 「食育・子どもたちが幸せになる食事」 来場者数 510人〔381人〕 ・9月 7日(土) ありえコレジヨホール 講 師 佐藤 和夫 氏 演 題 「電子メディアの子どもへの影響 ～小児科医と考えよう、スマホリテラシー～」 来場者数 177人〔289人〕 	B
<p>③ 家庭教育支援に関するネットワークの構築</p> <p>○ 子育て支援等にかかる研究調査及び学習啓発・相談等のプラットフォーム化を図り、きめ細かい伴走型支援を提供する施設として「わくわく広場」を開設している。</p> <p>情報提供や家庭教育啓発活動のほか、市民全体の家庭教育支援にかかる共通理解と啓発及び参加者の教育力向上をめざした学習会を行った。</p> <p>このように、現代的課題の解決に向けた一歩を踏み出したことは一定の評価ができ</p>	B

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>る。</p> <p>今後も家庭教育支援のネットワーク化や親の学びの機会の充実に努めたい。</p> <p>○ わくわく広場における講座</p> <p>市内 32講座〔33講座〕</p> <p>受講者数 452人〔373人〕</p> <p>(家庭教育支援プログラム、おはなし会ほか)</p> <p>○ 情報提供及び相談支援(講座以外)</p> <p>来所・訪問件数 44件〔22件〕</p> <p>来所・訪問者数 69人〔51人〕</p>	

(3) 地域教育力の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 地域による学校支援の充実</p> <p>○ 学校支援会議を核とした「南島原っ子の夢・憧れ・志育成プロジェクト」に基づき、学校・家庭・地域の更なる連携・協働による子どもたちの生きる力や相互の教育力の向上に努めることができた。</p> <p>会議、研修会を通じて、これからの学校と地域の目指すべき姿として、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動へ移行するため、学校教育部局と調整を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールへの移行に伴う学校支援会議の状況調査 <p>実施日 12月17日(火) 市内小中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度学校運営協議会及び地域学校協働活動コーディネーター研修会 <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止</p>	B
<p>② 地域教育力を生かした交流体験活動の実施</p> <p>○ 放課後学習支援事業(南島原未来塾)</p> <p>学習塾に通っていない市内の中学3年生を対象に教員OBや地域指導者の協力を得て、学習支援塾「南島原未来塾」を市内8地区全てで開催した。</p> <p>家庭学習の定着と学力向上に努め、参加した中学生は概ね希望する高校へ進学することができた。</p> <p>参加者数 133人〔122人〕</p> <p>指導者数 15人〔18人〕</p> <p>※ 事業実績としては目標を達成できたが、令和元年度で事業を終了したことから「D」とした。</p>	D
<p>○ 放課後こども教室・ながさき土曜学習推進事業(寺子屋21)</p> <p>放課後や週末等に学校や社会教育施設を利用して、子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動を通して夢や希望に向かってたくましく生き抜く子どもの育成を目的に、国の補助制度を受けて「放課後子ども教室」を実施した。</p> <p>この取組は年々拡充し、県内301教室のうち、本市で、年間を通して96教室を開催した。</p> <p>また、放課後児童クラブとの連携も充実してきており、地域の教育力の充実という点で特段の評価ができる。</p> <p>週末活動がメインであることから、今後平日の居場所づくりや学習活動の場として、学校図書館を活用した放課後教室の拡充に努めたい。</p> <p>前期 82教室 参加者数 延べ868人〔88教室・923人〕</p> <p>後期 76教室 参加者数 延べ778人〔87教室・902人〕</p>	A

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>○ 地域で学ぶ通学合宿事業</p> <p>子どもたちは、家庭から離れ、地域住民の協力の下、6泊7日程度の合宿生活を通して、自主性・協調性、さらに感謝の気持ちを培うことができた。また、保護者は、家庭教育の在り方を見つめ直す機会となった。</p> <p>(6泊7日通学合宿)</p> <p>有家 9月 8日(日)～14日(土) ありえコレジヨホール 参加者数 19人〔21人〕</p> <p>北有馬 10月27日(日)～11月2日(土) 北有馬ピロティー文化センター 参加者数 15人〔14人〕</p> <p>南有馬 11月10日(日)～16日(土) 原城オアシスセンター 参加者数 11人〔12人〕</p> <p>加津佐 11月10日(日)～16日(土) 加津佐公民館 参加者数 17人〔11人〕</p> <p>(3泊4日通学合宿)</p> <p>深江 9月10日(火)～13日(金) 深江公民館 参加者数 22人〔一人〕</p> <p>布津 10月 8日(火)～11日(金) 布津公民館 参加者数 12人〔17人〕</p>	A
<p>○ 子ども会育成事業</p> <p>市内子ども会の育成、助長を図り、地区子ども会間の連携及び相互の進歩・向上を期することを目的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども映画会 8月22日(木) ありえコレジヨホール 参加者数 445人〔521人〕 ・のびのび少年デー 11月 9日(土)～10日(日) 口之津地区 参加者数 477人〔592人〕 ・次期ジュニアリーダー研修会 <ul style="list-style-type: none"> 深江～西有家 2月15日(土)～16日(日) 国立諫早少年自然の家 参加者数 定員未滿により中止〔11人〕 北有馬～加津佐 2月15日(土)～16日(日) 原城温泉 真砂 参加者数 27人〔49人〕 	B
<p>③ 地域ぐるみの健全育成活動</p> <p>○ 青少年健全育成事業</p> <p>青少年の健全育成及び非行事故防止を目的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と遊ぼう 4月27日(土) 有家俵石自然運動公園 参加者数 約1,500人〔3,500人〕 ・少年ソフトボール大会 7月28日(日) 有家総合運動公園 参加者数 7チーム〔9チーム〕 ・夏休み帰宅放送(各中学校代表) 夏休み期間 7月21日(日)～8月31日(土) ・ファミリンピック 11月 9日(土) 布津世紀の泉 参加者数 500人〔700人〕 ・南島原市民会議広報誌配布(学校経由他) 配布部数 4,000部 	B
<p>④ 成人教育</p> <p>○ 公民館講座等の学習活動の機会と内容の充実を図るとともに、学習の成果を社会に還元できるような環境の整備に努めた。今後も各地区での一般講座、女性講座、歴史講座、防災講座等の地域課題に即した講座や人づくり・地域づくりにつながる学習会、</p>	A

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>自治公民館などとの連携事業を企画し、公民館本来の役割を考えた事業の実施に努めたい。</p> <p>地域の活性化を図るため、市内各地域において自治会・公民館活動を積極的に行っている取組事例を紹介し、市民一人一人が今後の南島原市を考え、地域が抱える課題解決のヒントとなるよう「地域の力を考える集い」を4地区で開催した。</p> <p>課題解決に向け、「何が必要なのか？何が足りないのか？震災が起きたら？」など市民一人一人が今後の南島原市を考える機会となり、市内に眠っている地域資源や人材の掘り起こしなど、地域に情報を提供することができた。集いには市内の高校生も参加し、南島原市の将来を担う若者の故郷への思いを聞くことができた。今後も継続して開催する。</p> <p>各種公民館講座の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般講座、女性講座、歴史講座、防災講座、高齢者学級 76講座〔93講座〕 224回〔342回〕 受講者数 延べ4,777人〔4,116人〕 ・地域の力を考える集い <ul style="list-style-type: none"> 深江・布津会場 12月8日(日) 参加者数 45人〔57人〕 有家・西有家会場 12月8日(日) 参加者数 39人〔54人〕 北有馬・南有馬会場 12月15日(日) 参加者数 44人〔51人〕 口之津・加津佐会場 12月15日(日) 参加者数 74人〔83人〕 	
<p>⑤ 人権教育</p> <p>○ 青少年人権教育推進事業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年人権講演会（市内全ての中学生対象） <ul style="list-style-type: none"> 12月3日(火) 西有家中学校 講師：小玉 澄香氏 12月5日(木) 南有馬中学校 講師：土手野 和広氏 12月6日(金) 有家中学校 講師：岡 寿彦・大津 信夫氏 12月10日(火) 北有馬中学校 講師：岡 寿彦氏 12月11日(水) 深江中学校 講師：宮崎 保氏 12月12日(木) 口之津中学校 講師：宮崎 保氏 ・人権教育学習会（市内小学生対象） <ul style="list-style-type: none"> 11月15日(金) 有馬小学校（4年生） 講師：松川 美代氏 11月29日(金) 布津小学校（3年生） 講師：小玉 澄香氏 12月19日(木) 布津小学校（5年生） 講師：林田 充敏氏 	B

(4) 芸術文化の振興

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 芸能文化事業</p> <p>○ 多くの市民に親しまれる本物の舞台芸術や展覧会などの鑑賞機会を提供し、文化・芸術の振興と豊かな地域づくりの推進を目的に開催した。</p> <p>今後、更に多くの方が気軽に鑑賞できる機会の提供を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年劇場の開催（中学生を対象） <ul style="list-style-type: none"> 内容 演劇「永遠の夏休み」 6月6日(木)・7日(金) 深江・北有馬中学校 336人〔295人〕 ・子どもミニコンサートの開催（小学生対象） <ul style="list-style-type: none"> 内容 「ピアノトリオ」（ピアノ、コントラバス、フルート） 6月18日(火)～20日(木) 市内5小学校 654人〔523人〕 	B

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども夢劇場の開催（小学生対象） 内容 児童劇「やだ、やだ あっかんべー！」劇団風の子九州 10月21日(月)～25日(金) 市内4会場 5小学校 743人〔1,394人〕 ・ひまわり夢劇場の開催（幼児対象） 内容 人形劇「花咲かじいさん」劇団ぱれっと 6月3日(月)～5日(水) 市内3会場 954人〔798人〕 	
<p>○ 芸術文化振興事業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝くじ文化公演「アントネッロ 天正遣欧少年使節の物語」 内容 7月12日(金) ありえコレジヨホール 186人 ・A列車に乗っていこう 内容 8月19日(月) ありえコレジヨホール 275人 ・DRUM TAO 「ザ・ドラマーズ」 内容 9月19日(木) ありえコレジヨホール 692人 ・倍賞千恵子 講演会 内容 12月1日(日) ありえコレジヨホール 449人 ・第3回 南島原市中学校吹奏楽部合同演奏会 内容 12月22日(日) ありえコレジヨホール 386人 ※ 令和元年度で事業終了。 ・世良公則 KNOCK KNOCK 2020 with 渡辺美里&NAOTO 内容 2月1日(土) ありえコレジヨホール 691人 	B
<p>② 第19回セナリヨ現代版画展の開催</p> <p>内 容 2月22日(土)～3月1日(日) ありえコレジヨホール 同巡回展 雲仙ビードロ美術館、長崎県美術館 ※同巡回展は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止 応募総数 16,977点〔15,869点〕 参観者数 1,252人〔3,815人〕</p>	A
<p>③ アートビレッジ・シラキノ事業</p> <p>○アーティスト・イン・レジデンス(AIR)事業</p> <p>アートビレッジ・シラキノ事業において、30年度に実施したAIRモニター事業により4版種(銅版画・リトグラフ・木版画・シルクスクリーン)の工房が整備されたことに伴い、令和元年度は全国公募型により5名の作家を招へいすることができ、共に制作活動をする機会を提供することで、作家同士の育成・スキルアップにもつながった。</p> <p>また、AIR事業以外の個展やワークショップも開催し、多くの地域住民等との交流もあり、本市の多様な魅力の創出につなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートビレッジ・シラキノ エducーター(※) 池田 俊彦氏 ・アーティスト・イン・レジデンス事業(5名) 8月～9月 興梠 優護氏 長嶋 由季氏 山田 真実氏 1月～3月 光安 雅伸氏 エヴェリナ スコヴロンスカ氏 ・事業内容 展覧会・教室・講座・オープンアトリエ(AIRモニター事業含む) 全15回 参加者数 延べ1,182人〔1,759人〕 <p>※ エducーター：美術館や博物館において教育・普及活動を行う専門家。 展示解説や各種の教育プログラムなどに携わり、来館者の学習を支援する。</p>	B

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>○施設（ギャラリー、工房、宿泊）の利用 施設の運営面ではギャラリー・工房・宿泊施設の個人やグループでの利用が少なく、今後、利用拡大に向けた取組が必要である。</p> <p> ギャラリー 0件〔0件〕</p> <p> 工房 31件〔0件〕</p> <p> 宿泊 14件〔0件〕</p>	

(5) 読書活動の推進

<p>① 図書館</p> <p>○ 市民の利便性を向上させ、より使いやすい図書館運営を図るため、市内6図書館、2図書室が連携・協力し読書活動の推進を行った。</p> <p> また、「子どもと本でつながる学校と図書館」連携事業として、学校図書館に図書館司書を派遣し、小・中学校図書館、図書館、公民館図書室が相互に連携し、図書資料の充実を行い、子どもの読書活動推進にも取り組んだ。</p> <p> 更には、家庭教育支援施設としての機能の充実を図るため、親子や幼児を対象とした図書館教室の開催や、乳幼児図書の充実に努めた。</p> <p> このように他市にない充実した読書環境を生かし、知の地域づくりに努めるとともに、図書館と学校図書館の連携により、学校図書館の充実と子どもの居場所づくりや読書教育の充実につながったことは一定の評価ができる。</p> <p> 今後も保護者や地域住民によるボランティアの育成を目指し社会教育行政職員、図書館職員、図書館ボランティア、学校などの関係機関と連携を密にし、知の地域づくりに取り組んでいきたい。</p>	B
<p>② 読書活動推進事業</p> <p>○ おはなしカーニバル in 南島原 ～きてみんな～!!</p> <p> 内容 11月17日(土) ありえコレジヨホール</p> <p>○ 「絵本ライブ in 学校図書館」</p> <p> 内容 11月 1日(日) 布津小学校 (午前)、堂崎小学校 (午後)</p> <p>○ 図書館教室 (図書館まつり含む。)</p> <p> 内容 各図書館 参加者数 延べ13,382人〔13,654人〕</p> <p>○ 図書館まつり 各図書館</p>	B
<p>③ 図書館ボランティアの育成</p> <p>○ 読書サポーター養成講座</p> <p> 内容 10月12日(土)、10月19日(土)、11月 9日(木) 全3回 ありえコレジヨホール 受講者数 延べ134人〔190人〕</p> <p>○ 図書館友の会支援事業</p> <p> 内容 図書館友の会7団体へ運営費補助</p>	B

4 スポーツの振興に関する事務

(1) スポーツイベントの開催

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 南向きファミリー元気フェスタ！</p> <p>○ 本事業は、企画、運営を総合型地域スポーツクラブ「TEAMひまわり」へ委託事業として行っている。</p> <p>子どもたちの体力づくりと運動能力向上のための運動体験イベントとして「スポーツ鬼ごっこ南島原大会」を計画し準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p> <p>3月20日(金・祝) 128人(申込者数)〔165人〕</p>	B
<p>② 口加駅伝競走大会</p> <p>○ 駅伝の魅力であるチーム競技として多くの参加者で盛り上がった。</p> <p>コースについては、加津佐B&G海洋センター前をスタート、ゴールの周回コースとして設定しているが、コースを間違える選手がいたため、実行委員会で協議を重ねコースを変更し対応した。</p> <p>現在、事務局を市から実行委員会組織へ段階的に移行しているため、連携を図りながら事業を進めていく必要がある。</p> <p>12月8日(日) 41チーム・250人〔42チーム・270人〕</p>	B
<p>③ 南島原市綱引き大会</p> <p>○ 小学生やレディースの部など、一般からも多くの参加者と応援者で活気のある大会となった。</p> <p>小学生の部では体力の差もあるが、練習を重ねてきたチームが入賞しており競技力とチーム力の向上が見られた。</p> <p>運営面ではスポーツ推進委員を中心に改善を行いながらスムーズな運営が図られた。</p> <p>6月30日(日) 34チーム・373人〔29チーム・302人〕【500人】</p>	B
<p>④ 原城マラソン大会</p> <p>○ 史跡「原城跡」を顕彰するとともに健康づくりと競技力向上を図ることを目的に開催した本大会は、今回29回目を迎え県内外より多くの申込みがあった。しかし、大会直前に新型コロナウイルス感染症の影響により中止と判断した。</p> <p>なお、直前での決定であったため、大会要項の規定により大会プログラム、参加賞の発送をもって大会開催に代えた。</p> <p>今後は、マラソン大会だけでなく、世界遺産を広くPRするイベントとして他団体と連携を図りながら拡大していくことも検討していく。</p> <p>2月23日(日) 1,844人(申込者数)〔1,928人〕 【2,000人】</p>	A
<p>⑤ 小学生水泳教室</p> <p>○ 前浜・白浜海水浴場といった美しい自然環境を有する本市では、泳げない子どもが増加している中、水泳の普及並びに水難事故防止を図ることを目的に、市内全地区で低学年を対象に水泳教室を開催した。参加した児童は、水に親しみながら泳ぐことの楽しさを学ぶことができた。</p> <p>7月29日(月)～8月3日(土) 201人〔223人〕</p>	B
<p>⑥ フィットネススクール</p> <p>○ ヨガ、ボクシングフィットネスなどの教室を開催し、市民の体力保持と健康増進を図った。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、途中で中止した教室もあった。</p> <p>今後は、教室終了後、自主サークルとしての自立に向けた仕掛けが必要である。</p>	B

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
11月6日(水)～3月14日(月) 285人〔318人〕	
<p>⑦ 自然体験事業「ネイチャー」</p> <p>○ 市内の小学生を対象に、南島原市の自然に触れ合い、郷土を愛する心を育むことを目的に、白洲探検、マリンスポーツ、魚釣り、イルカウォッチング、海苔つみ体験等の体験活動を開催した。</p> <p>低学年の参加が多く自然の中での活動であるため、安全管理を徹底したスタッフ配置を行ったうえで進めていく必要がある。</p> <p>7月20日(土)～3月26日(木) 計10回 50人〔58人〕</p>	B
<p>⑧ マリンスポーツ教室</p> <p>○ カヌー、ヨット、SUP等、南島原市の自然に触れ合いながらマリンスポーツ体験を行う教室を開催した。また、親子を対象としたプログラムも取り入れ、自然の中での親子の触れ合い体験が出来た。</p> <p>7月23日(火)～8月22日(木) 計25回 228人〔191人〕</p>	B
<p>⑨ マリン・ア・ラ・カブーフェスタ</p> <p>○ マリンスポーツを通して海への関心を深めるとともに、美しい自然に触れ合うことで南島原市の魅力を市内外に広くアピールし、市の活性化に寄与することを目的に開催した。天候にも恵まれ多くの参加者・見学者で賑わった。</p> <p>今後は、マリンスポーツの体験だけでなく、観光や人口交流につながる仕掛けを行うことでイベントの拡大を図る。</p> <p>8月3日(土)～8月4日(日) 99人〔84人〕</p>	B
<p>⑩ 市民スポーツ大会</p> <p>○ 市体育協会の主催、並びに加盟団体の運営による市民スポーツ大会を開催した。事務局であるスポーツ振興課は、安全な大会運営のため、熱中症予防の注意喚起等を行い、事故も無く終了することができた。</p> <p>なお、この大会は県民体育大会出場の予選会として実施した。</p> <p>7月14日(日)～9月1日(日) 2,436人〔2,288人〕</p>	B
<p>⑪ スポーツ専門指導員育成講習会</p> <p>○ 市内スポーツの競技力向上を見据え、少年スポーツ指導者、スポーツ関係者、スポーツ推進委員等を対象に開催し、専門的なトレーニング知識の習得とレベルアップを図った。</p> <p>1月31日(金) 22人〔41人〕 【100人】</p> <p>演題：「一瞬を逃さない眼をつくる！ビジョントレーニングの理論と実際！」</p> <p>講師：中村 尚広 氏</p> <p>内容：長崎県内唯一のオプトメトリストとしてスポーツビジョントレーニングの成果等実技を交え解説。また、スマホ内斜視等、現代社会における眼の病気の話やその予防・治療方法等実際に訪れた患者さんの実例を踏まえての講習を行った。</p> <p>委託事業先：TEAMひまわり</p>	B

(2) スポーツ団体との連携

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 南島原市体育協会との連携</p> <p>○ 現在、体育協会は22競技団体が加盟しており、スポーツ競技の普及・振興を図り、市民の体力向上と健康増進に寄与するために、事務局であるスポーツ振興課と体育協会が連携し、市民スポーツ大会の開催や県民体育大会への選手団の派遣等、市内競技スポーツの競技力の向上に取り組んだ。</p>	B

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>② 南島原市スポーツ推進委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ推進委員（８０人）と連携を図りながら市内全てのスポーツ事業の役員として協力を得ることでスムーズな運営を行うことができた。 <p>また、新体力テストや各地域で開催されている地区体育祭等の行事においても中心的な役割を担い、スポーツによる地域活性化が図られた。</p>	B
<p>③ 総合型地域スポーツクラブとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ TEAMひまわりは、幼児期からの運動能力・運動神経の向上を目的とした保育園・幼稚園を巡回する「からだ遊び教室」や「各種スポーツ教室」を主たる事業として実施し、市事業の講師派遣や企画運營業務について委託を行った。 <p>平成３０年度から３年間、スポーツ振興協働事業「ひまわりキャラバン」として、学校の協力を得て小学生の新体力テスト等のデータを収集・分析し、専門家指導のもと体力向上に向けた指導プログラムの構築を行っている。</p> <p>課題としては、スタッフの確保が難しいことや会員数が伸びていないことから、新しい事業展開を図る必要がある。</p>	B
<p>④ 小学校社会体育活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の健全な育成と体育・スポーツ活動の振興を図るため、児童で組織するクラブ活動に対して補助金を交付した。 <p>４２クラブ〔４２クラブ〕</p>	B

5 文化財の保護活用に関する事務

(1) 資料館等の維持・管理

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 口之津歴史民俗資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 口之津歴史民俗資料館収蔵品の燻蒸処理、修繕、施設ガイダンス（館長解説） 入館者数 4,195人〔4,361人〕 	B
<p>② 深江埋蔵文化財・噴火災害資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 深江埋蔵文化財・噴火災害資料館展示資料の整理並びに説明 入館者数 238人〔289人〕 	

(2) 指定文化財の保護・管理

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 指定文化財の保護管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国指定・県指定・市指定文化財の保存管理に努める。特に国指定史跡の原城跡や日野江城跡においては、景観が損なわれることのないように配慮する必要がある。 原城跡と日野江城跡の史跡等を中心に、主として除草作業を実施した。 市内史跡の除草作業も定期的に行っている。 ○ 南蛮船来航の地説明板修繕の外、3件の案内板修繕を実施した。 	B
<p>② 指定文化財の巡回</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指定文化財の巡回を行い、き損等の初期発見に努める。 県指定文化財：文化財巡視活動回数（年間）3回〔6回〕 市指定文化財：月1回加津佐から深江の主な文化財の巡回を兼ねて除草作業を実施した。 	
<p>③ 指定文化財の防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指定文化財の防災訓練を地域住民と協力して行う必要がある。 令和2年1月26日（日）に口之津歴史民俗資料館から出火したと想定して文化財防火訓練を実施した。 	

(3) 埋蔵文化財の発掘調査

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 権現脇遺跡整理調査・報告書刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国土交通省砂防事業に伴う発掘調査受託事業 水無川資材搬入路工事及び赤松谷川1・2号導流堤嵩上げ工事に伴う発掘調査の整理調査を行った。 	A
<p>② 諏訪地区本調査・整理調査・報告書刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県営ほ場整備に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出口遺跡 調査面積 50㎡ 縄文時代晩期及び中世の遺物を検出した。 ・ 諏訪ノ上遺跡 検出した遺構・遺物の整理調査を実施し、南島原市文化財調査報告書第20集『諏訪ノ上遺跡』を刊行した。 	
<p>③ 山ノ寺梶木遺跡隣接地試掘調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民間による駐車場造成に伴う発掘調査 	

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画地 調査面積 8 m² 遺構面・遺物包含層ともに確認されなかった。 	
<p>④ 潮入崎遺跡範囲確認調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民間による太陽光発電設備建設に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画地 調査面積 4 m² 縄文時代晩期，弥生時代，中世の遺構面・遺物包含層を確認した。 	
<p>⑤ 山之内遺跡整理調査・報告書刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県営ほ場整備事業に伴う発掘調査 検出した遺構・遺物の整理調査を実施し，南島原市文化財調査報告書第19集『山之内遺跡』を刊行した。 	
<p>⑥ 東大窪遺跡・中萩原遺跡整理調査・報告書刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市道改良工事に伴う発掘調査 検出した遺構・遺物の整理調査を実施し，南島原市文化財調査報告書第18集『東大窪遺跡・中萩原遺跡』を刊行した。 	
<p>⑦ 見岳地区本調査・整理調査・報告書刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県営ほ場整備事業に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・野中A遺跡 調査面積 666 m² 縄文時代早期・晩期，弥生時代後期の遺物を検出した。 ・養台寺跡 調査面積 599 m² 表土剥ぎを行い，遺物包含層上面まで検出した。 ・東石原遺跡 検出した遺構・遺物の整理調査を実施し，南島原市文化財調査報告書第17集『東石原遺跡』を刊行した。 	
<p>⑧ 見岳地区内容確認調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県営ほ場整備事業に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・野中A遺跡 調査面積 64 m² 縄文時代早期・晩期，弥生時代の遺物包含層を確認した。 ・野中B遺跡 調査面積 44 m² 縄文時代晩期，弥生時代の遺物包含層を確認した。 ・東新堂原遺跡 調査面積 8 m² 縄文時代後・晩期の遺物包含層を確認した。 ・野中C遺跡 調査面積 8 m² 中世の柱穴を確認した。 ・養台寺跡 調査面積 32 m² 縄文時代早期・後期・晩期，弥生時代，中世の遺構面及び遺物包含層を確認した。 ・新堂原遺跡 調査面積 12 m² 縄文時代後・晩期，弥生時代，中世の遺物包含層を確認した。 	
<p>⑨ 常光寺前駅西側遺跡隣接地試掘調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市営農道整理事業に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画地 調査面積 8 m² 遺構面・遺物包含層ともに確認されなかった。 	
<p>⑩ 幕府軍本陣推定地試掘調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市営多目的運動広場建設に伴う発掘調査 	

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画地 調査面積 8 m² 遺構面・遺物包含層ともに確認されなかった。 	
<p>⑪ 原城跡隣接地試掘調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市営世界遺産ガイダンス施設建設にともなう発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画地 調査面積 24 m² 令和2年度において継続調査。 	
<p>⑫ 原城跡二ノ丸内容確認調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学術調査 <ul style="list-style-type: none"> ・二ノ丸地区 調査面積 88 m² 近世初頭の遺構面・遺物包含層を確認した。 	
<p>⑬ 内野貝塚本調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市営道路改良工事に伴う発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・調査面積 288 m² 弥生時代後期の貝層，遺物包含層を確認した。 	

(4) 文化財保護審議会

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 文化財等調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あこう群落現地調査 <ul style="list-style-type: none"> 地域住民から市指定のあこう群落18本のうち、2本が倒壊の恐れによる伐採要望があり調査、審議した。 	B

(5) 史跡原城跡・日野江城跡専門委員会

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 原城跡保存活用計画の策定（2か年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原城跡の本質的な価値とその構成要素を明確化し、現状と課題を整理しながら史跡全域あるいはその周辺の保存活用方策を検討した。 	B

6 世界遺産推進に関する事務

(1) 世界遺産の価値に関する適切な情報提供

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 情報発信を図るためのパンフレット等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パンフレット等の作成、配布 来訪者が原城跡の価値を理解するためのパンフレット（現地版）を4万部作成し、総合案内所で配布している。 	B
<p>② 南島原市世界遺産情報発信システム『有馬歴史ガイド』と『原城VR』の活用及びシステムの拡充</p> <p>原城跡総合案内所でVR（当時の原城本丸を再現したイメージ映像）の貸し出しを行い世界遺産としての価値の周知を行った。</p> <p>平成31年度（令和元年度）貸出人数：5,556人</p>	
<p>③ 原城跡の来訪者数の確認</p> <p>原城跡本丸に来訪者カウンターを設置し来訪者数の確認を開始した。</p> <p>12月11日～31日：2,853人</p> <p>1月：3,422人</p> <p>2月：3,722人</p> <p>3月：4,129人</p>	

(2) 世界遺産アクションプランに基づく取組の展開

点検・評価のコメント及び活動内容等	評価 ランク
<p>① 南島原市世界遺産市民協働会議による取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産啓発イベント 原城一揆まつりにおけるクイズラリーを実施した（約150人参加）。 ○清掃活動の実施 原城跡で市民協働会議主催の清掃活動を実施した（6月、11月 計240人程度参加）。 ○世界遺産登録1周年記念シンポジウムの開催 1月12日（日）ありエコレジヨホールを会場としてシンポジウムを開催した（500人参加）。 	B
<p>② 世界遺産啓発グッズの活用</p> <p>世界遺産の啓発のため、市内で実施されるイベントや会議などで、これまでに作成したパンフレットやグッズを配布した。</p>	
<p>③ 世界遺産推進のための事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産影響評価 世界遺産保全のための取組の一つである世界遺産影響評価を長崎県と連携して実施した（天草風力発電事業5件、市内開発事業2件）。 ○モニタリング準備 2022年の世界遺産委員会に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の保全状況が報告されることから、文化庁や長崎県、関係区市町とともに保全状況報告の手法の検討などを行った。 ○関係自治体との連携 長崎県や関係区市町と連携し、世界遺産の保全や普及啓発などの取組を実施した。 	

報告第5号

南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱の一部を改正
する告示について

提案理由

令和2年度における夏季休業日の特例を設けたことに伴い、補助対象経費について
所要の改正を行ったので、南島原市教育委員会の権限事務の一部を教育長に委任し又
は臨時に代理させる規則第5条の規定により報告する。

令和2年8月27日提出

南島原市教育委員会
教育長 永田 良二

南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱の一部を改正する告示
南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱（平成24年南島原市告示第27号）の一部を次のように改正する。

附則に次の1項を加える。

（令和2年度における補助対象経費の特例）

- 4 令和2年度における別表第1及び別表第2の規定の適用については、これらの規定中「8月を除く11月分」とあるのは、「11月分」とする。

附 則

この告示は、令和2年8月24日から施行する。

南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱の一部を改正する告示 新旧対照表

新	旧
<p>附 則 1～3 (略) <u>(令和2年度における補助対象経費の特例)</u> 4 <u>令和2年度における別表第1及び別表第2の規定の適用については、これらの規定中「8月を除く11月分」とあるのは、「11月分」とする。</u></p>	<p>附 則 1～3 (略)</p>

○南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱

平成24年3月30日告示第27号

改正

平成26年4月1日告示第35号

南島原市立小中学校遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 市は、市立小中学校における遠距離通学児童・生徒等の保護者の負担の軽減を図り、義務教育の円滑なる実施に資するため、遠距離通学児童・生徒等の保護者に対し、遠距離児童・生徒通学費補助金（以下「補助金」という。）を交付するものとし、その交付については、南島原市補助金等交付規則（平成18年南島原市規則第35号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この告示の定めるところによる。

(補助の対象者)

第2条 補助金の対象者は、南島原市に住所を有し、次の各号のいずれかに該当する児童・生徒の保護者とする。ただし、通学区域変更の許可を受け、教育委員会が指定した学校以外の学校に通学する児童・生徒の保護者を除く。

- (1) 通学距離が小学校では片道4キロメートル以上、中学校では6キロメートル以上の地域から公共交通機関を利用して通学する児童・生徒
- (2) 学校の統合等により就学する学校を指定した地域で、公共交通機関を利用して通学することが適当であると市長が認めた別表第1に定める対象地域から公共交通機関を利用して通学する児童・生徒
- (3) 通学距離が小学校では片道4キロメートル以上、中学校では6キロメートル以上の地域で、公共交通機関の運行する地域にあつて通学時間帯に公共交通機関が運行していない別表第2に定める対象地域から通学する児童・生徒で、市長が適当と認めた方法により通学するもの

(補助対象経費及び補助率等)

第3条 補助金の交付の対象となる経費（以下「補助対象経費」という。）は公共交通機関の定期券の購入に要する費用とし、補助率は補助金の交付の対象となる経費の2分の1以内とする。ただし、前条第2号及び第3号に定める対象地域の補助対象経費及び補助率等は、別表第1及び別表第2に定めるとおりとする。

(遠距離通学届)

第4条 補助金の交付を受けようとする者は、南島原市立小中学校遠距離通学届（様式第1号）により学校長へ届け出なければならない。

(補助金の交付申請)

第5条 学校長は、前条の規定により提出された南島原市立小中学校遠距離通学届を取りまとめ、規則第4条の規定による申請書に次の書類を添付して市長に提出しなければならない。

- (1) 遠距離児童・生徒通学費補助事業計画書（様式第2号）
- (2) 遠距離児童・生徒通学費補助事業収支予算書（様式第3号）
- (3) 遠距離児童・生徒通学費補助対象者名簿（様式第4号）
- (4) その他市長が必要と認める書類

(補助金の交付決定)

第6条 市長は、補助金の交付申請があつたときは、前条に規定する書類の審査を行い、交付の可否を決定する。

(申請事項の変更等の承認)

第7条 前条の規定により補助金の交付の決定を受けた者は、その申請内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、規則第11条の規定により補助事業等変更中止(廃止)報告書に、変更しようとする事項に係る第5条各号に掲げる書類を添えて市長に提出し、その承認を受けなければならない。

(実績報告)

第8条 学校長は、補助事業完了後、規則第13条の規定による実績報告書に次の書類を添付して提出しなければならない。

- (1) 遠距離児童・生徒通学費補助事業実績報告書(様式第5号)
- (2) 遠距離児童・生徒通学費補助事業収支精算書(様式第6号)
- (3) 遠距離児童・生徒通学費補助金交付者名簿(様式第7号)
- (4) その他市長が必要と認める書類

(補助金の返還)

第9条 転校等の理由により、既に受けた補助金が過払いとなった場合は、日割り計算により返還しなければならない。

(補則)

第10条 この告示に定めるもののほか、必要な事項については、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、平成24年4月1日から施行する。
(有家町遠距離生徒通学費補助金交付要綱の廃止)
- 2 有家町遠距離生徒通学費補助金交付要綱(昭和46年有家町訓令第2号)は、廃止する。
(経過措置)
- 3 この告示の施行の日の前日までに前項の規定による廃止前の有家町遠距離生徒通学費補助金交付要綱の規定によりなされた処分、手続その他の行為及びその他の児童生徒通学費補助金に係る処分、手続その他の行為は、この告示の相当規定によりなされたものとみなす。
(令和2年度における補助対象経費の特例)
- 4 令和2年度における別表第1及び別表第2の規定の適用については、これらの規定中「8月を除く11月分」とあるのは、「11月分」とする。

附 則(平成26年4月1日告示第35号)

この告示は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1(第2条、第3条関係)

学校名	対象地域	補助対象経費	補助率等
南島原市立小林小学校	山ノ寺地区	定期券の購入に要する費用(8月を除く11月分)	補助対象経費の2分の1
南島原市立深江中学校	山ノ寺地区	定期券の購入に要する費用(8月を除く11月分)	補助対象経費の2分の1

南島原市立有家 中学校	国道251号にあ って堂崎公民 館前バス停以 遠のバス停か ら通学する地 区及び県道132 号にあって桜 馬場バス停以 遠のバス停か ら通学する地 区	定期券の購入に要 する費用（8月を 除く11月分）	(1) 就学困難な児童及び生徒 に係る就学奨励についての国 の援助に関する法律（昭和31 年法律第40号）第2条に該当 する者にあつては、補助対象 経費の全額 (2) (1)に掲げる者以外の者 にあつては、補助対象経費か ら月額1,500円を控除した額
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

別表第2（第2条、第3条関係）

学校名	対象地域	補助対象経費	補助率等
南島原市立西有 家中学校	塔ノ坂地区	定期券を購入した 場合に要する費用 （8月を除く11月 分）	補助対象経費の2分の1

様式第1号 (第4条関係)

年 月 日

南島原市立 学校長 様

保護者住所
氏名 ㊦
電話

年度 南島原市立 学校遠距離通学届

年度における遠距離児童・生徒通学費補助金の交付を受けたいので、下記のとおりお届けします。

また、遠距離児童・生徒通学費補助金に関する請求・受領代金の支払い及び返納に関する一切の権限を学校長に委任します。

記

児童・生徒	住 所					
	校名及び学年	南島原市立	学校	第	学年	(組)
	氏 名			保護者との続柄		
交通機関	(手段)	路線		{	から	}
				{	まで	}
定期券額	(月額)	円	交付申請額	(月額)	円	
通学期間	年 月 日から 年 月 日まで					
備 考						

【振込口座】

金融機関	銀行		本支店名	本店・支店		
	農協		本支店名	本店・支店		
口座情報	普通 ・ 当座 (いずれかに○)					口座名義人 (加付表記)
	口座番号					

様式第2号（第5条関係）

年度 遠距離児童・生徒通学費補助事業計画書

南島原市立 学校
校長

1. 事業の目的

2. 事業の内容

3. 補助金額の算出

4. その他

様式第3号 (第5条関係)

年度 遠距離児童・生徒通学費補助事業収支予算書

南島原市立 学校
校長

1. 総括表

区 分	金 額	備 考
収 入 金 額	円	
支 出 金 額	円	
差 引	円	

2. 収入の部

区 分	金 額	備 考
	円	
	円	
	円	
合 計	円	

3. 支出の部

区 分	金 額	備 考
	円	
	円	
	円	
合 計	円	

様式第5号 (第8条関係)

年度 遠距離児童・生徒通学費補助事業実績報告書

南島原市立
校長

学校

1. 事業の成果

2. 事業の内容

3. 補助金額の算出

4. その他

様式第6号 (第8条関係)

年度 遠距離児童・生徒通学費補助事業収支精算書

南島原市立 学校
校長

1. 総括表

区 分	金 額	備 考
収 入 金 額	円	
支 出 金 額	円	
差 引	円	

2. 収入の部

区 分	金 額	備 考
	円	
	円	
	円	
合 計	円	

3. 支出の部

区 分	金 額	備 考
	円	
	円	
	円	
合 計	円	

